

第3回学校運営協議会議事録

校名	府立東百舌鳥高等学校
校長名	青木 浩子

開催日時	令和4年2月2日(水) 15:00 ~ 16:30
開催場所	大阪府立東百舌鳥高等学校 1階 会議室
出席者(委員)	伊井直比呂 会長、梶山尚也 副会長、藺 彰久 委員、西村和彦 委員、小仲久雄 委員
出席者(学校)	青木浩子 校長、夏川照章 教頭、山口俊也 事務長、西川英志 首席、福島洋平 首席、郡山鷹子 指導教諭、伊田清悟、真島 匠、本山三紗子
傍聴者	0名
協議資料	令和3年度 学校教育自己診断 集計、令和4年度 学校経営計画及び学校評価、令和3年度 学校経営計画および学校評価、令和3年度学校教育目標の自己評価票、
備考	
議題等(次第順)	
<p>・校長挨拶 ・学校運営協議会会長挨拶</p> <p>(1) 令和3年度 学校教育自己診断について</p> <p>(2) 令和3年度 第2回授業アンケートについて</p> <p>(3) 令和3年度 学校教育目標の達成状況について</p> <p>(4) 令和3年度 学校評価について</p> <p>(5) 令和4年度 学校経営計画について</p>	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
<p>・各資料について報告、説明。その後協議に入る。</p> <p>・協議(4)(5)は満場一致で承認された。</p> <p>質疑・提言</p> <p>・資料(3)にて、進路達成状況に関して、看護医療専門コースの進学状況はどうか？ ⇒所属生徒32名中、29名看護系専門学校進学、3名医療系進学。</p> <p>・資料(4)にて、職員減の中で十分に取り組みの成果をあげていると思う。</p> <p>・資料(4)にて、遅刻件数については今年度の結果が出ていないが、見込みはどうか？ ⇒件数は減少傾向にあるが、生徒数も減少している。劇的な改善に至っていない。また、コロナウイルス関連の通院による遅刻などもある。</p> <p>・資料(5)にて、(探究学習における目標に、SDGsを盛り込む目標を立てたことについて)これまでの探究学習の活動をさらに深めていこうという前向きな姿勢が感じられる。</p> <p>・資料(5)にて、(1人1台の個人用端末(Chrome Book)について)持ち帰っているのか？ 使用に関して制限があるのか？ 故障などは起こっているのか？ ⇒基本は、授業に必要な場合は持参し、持ち帰る指導となっている。 ⇒生徒が勝手にアプリのダウンロードやインストールはできない。閲覧制限もある。YouTubeやGooglemapなどは学校側で許可して、利用させている。 ⇒故障等はあまりない。3年生に貸与していた端末も故障などなく、ほぼ回収できている。</p>	

ご意見・ご感想

・SDGsに関わるこれまでの探究学習の活動について、高い評価ができる。

・(これまでのICT活用の実績と学校教育自己診断「年度当初より、自ら進んで学習するようになった」が高くなかったことをふまえて)ICTを活用する中で、自ら進んで学習するようにつながったか?どのような試みをしているか?

⇒生徒の価値観のずれがある。例えば、自らインターネットで調べていることも学習の時間であるが、それを認識していない場合が少なくない。生徒が意識していないレベルで、学習している場合も多い。

⇒自分で考えて、判断し、表現することの指導や評価方法も教員側も研修している。

・(資料(5)にて、「思考力・判断力・表現力」のバランスの良い育成を掲げたことについて)実社会における生きる力を伸ばすために話すこと、表現することを育成してほしい。

・探究学習やICT活用が活発になることで、インターネットを活用しての情報収集が高まっている一方で、図書室の利用が減少している。ICTと図書室の利用をうまく融合させることはできないか?

⇒授業や教員の指示の下、利用することは多いが、自主的に利用することは厳しい状況になっている。

・(上記回答をふまえて)インターネットは最近の情報が中心であり、事象の原点にあるような過去の情報が少ない。こうした情報を調査する方法として、大学では図書室の活用を推奨している。

・資料(3)にて、安全衛生委員会より「生徒数の減少に伴い、教員定数が減る中で疲労が蓄積している教員も多いと感じる」と報告されていることに対して、留意が必要である。

⇒教員研修等で負担にならないように、今年度は午前中授業の後に4回研修を実施した。このように負担にならないような試みを実施している。

・(資料(1)にて、保護者の質問項目を「学校は生活規律や学習規律などの指導に力を入れている」から「生活規律や学習規律などの指導は理解できる」としたことをふまえて)生徒、保護者とともに教育活動を深めていこうという姿勢が見られる。

・新年度に向かって、東百舌鳥の大きな特徴である「理解」というキーワードで教育活動を深めてきたことが大きい。

・これまでの成果として、ICTを使った学習活動の広がりをずっと研究されてきたが、改めて「探究の時間」の成果発表会で発揮されていることが確認できた。

・その学習方法において調べ方や他団体へ連絡を取ったりと多様性を維持していること、つまり生徒の学び方においてICTの活用とは違った学び方が起こっていることもよく分かった。

・多様性を統合していく新たな教育活動の先端性をさらに推し進めていくために、さらなる行政の支援をお願いしたい。